『社会に貢献する女性』を訪ねて Vol.04 2014.2.26

水戸女子高校は、長い歴史の中で学校の仕組みや制服などが変化してきました。しかし、『社会に貢献する女性の育成』という建学精神に基づく指導は変わっていません。

それでは、水戸女子高校の卒業生がどのように社会で頑張っているのでしょうか？卒業生にインタビューをしてみました。

第４回は飯島彩花さんです。飯島さんは平成 19 年度にソフトテニス部の特待生として入学、普通科進学コースを選択し、卒業後は医療専門学校水戸メディカルカレッジに進学しました。現在は理学療法士として、北水会記念病院のデイサービスで活躍されています。

インタビュアー：生徒募集強化委員会　西内豊人

先生の一言が決め手に

今日はインタビューを受けていただきありがとうございます。早速ですが、水戸女子高校での思い出を教えてください。

部活で辛かった時もありましたが、3 年間とても楽しかったというのが思い出です。男性がいない分、のびのび学校生活を送れました。

それは良かったですね。飯島さんは、進路についていつ頃から考えましたか？

高校 2 年の終わり頃から進路については考えました。男性に負けないように航空整備士になろうかとも考えましたが、祖母が大腿骨頸部骨折をきっかけに 9 年間車椅子での生活だったこと、その祖母の介護をしていた両親の姿を見て理学療法士になろうと思いました。

理学療法士を目指すきっかけはそのような理由があったのですね。多くの学校がある中、水戸メディカルカレッジを選んだ理由は何ですか？

県南の 4 年制の専門学校も考えていたのですが、学費のことなどを優先すると水戸メディカルカレッジになるかなと考えていました。ただ、水戸メディカルカレッジは当時卒業の実績がない[*1]という不安な面もあったため、正直決めかねていました。そんな時、『そこはお前の頑張り次第だ』とソフトテニス部の顧問の先生からもらった一言が決め手となり、水戸メディカルカレッジを受験することにしました。

*1：　水戸メディカルカレッジは平成 20 年 4 月に開校したため、平成 21 年の段階ではまだ卒業生を輩出していなかった。

水戸女子高校でインタビューを行いました。参考になる話が盛りだくさんでした。

制服姿も見せてくれました。私服姿とは違って、理学療法士の雰囲気が出ていました。

先生の一言がポイントになったのですね！受験対策は何かしましたか？

作文と面接が試験科目だったのですが、私は話すのが苦手だったので、鏡に向かって面接練習をしていました。後日、私の面接を担当した方から「面接はたどたどしかったけど、頑張っている様子や理由がしっかりしていたので合格にした」という話を聞き、頑張って良かったと思いました。

専門学校ならではの苦労

水戸メディカルカレッジでの思い出はありますか？

入学当初は高校生活からの解放感から遊んでしまい、勉強についていけなくなり、前期試験の教科の単位をだいぶ落としてしまいました。ただ、これではいけないとメリハリをつけた生活に切り替え、毎日コツコツ勉強をするようにしました。生活を変えたことで成績も一気に伸びたので、周りからは「何かあったの？」って言われましたね（苦笑）

早く気付いて良かったですね（笑）　理学療法士の国家試験対策は大変だったのではないですか？

理学療法士の国家試験は毎年２月下旬に行われるので、大学では国家試験対策を前年の夏ぐらいから開始します。ところが、水戸メディカルカレッジは３年間で卒業するため、11 月まで臨床実習が入っていました。そのため、本格的な国家試験対策は 12 月からになったので、とても大変でした。ただ、12 月から模試がみっちり入っていたため、模試をこなしていくうちにだんだん自信がついていき、国家試験に合格することが出来ました。

４年制の大学や専門学校とは違い、就学期間が短いので確かに大変だったと思います。どうして、卒業後にデイサービスの仕事を選んだのですか？

私は、北水会グループ奨学金*2 を利用していたので、卒業後は北水会グループへの就職が決まっていました。卒業する３か月前頃に面接試験があり、私はデイサービスの担当になりました。

*2：　専門学校によっては、卒業後に指定された施設に決められた期間を勤務することによって奨学金の返済が免除になる制度を採用している。

理学療法士の仕事とは

現在の仕事内容を簡単に教えて下さい。

色々な施設を訪問し、リハビリを行っています。患者さんの状態を評価してから見極め、治療を行います。リハビリに答えはありません。なので、試行錯誤しながらもその患者さんにあった治療を行っていきます。施設によっては、治療時間が短い所もあり大変ですが、とても充実した日々を送っています。

「リハビリに答えはない」というのはとても良い言葉ですね。また、高校時代の夢がかなって、とてもうれしく思います。飯島さんの明るく、前向きな性格を生かして、今後も頑張ってほしいと思います。最後に在校生に社会に出る上でのアドバイスをお願いします。

人の言葉に対して反発するのではなく、まずは受け入れるようにしてみて下さい。そして、自分で考えて、自分なりの意見を出すようにして下さい。それをすることで、自分がより良く成長できると思います。

本日はありがとうございました。

「本当は中学校でソフトテニスは終わりにするはずだった」という飯島さん。水戸女子高校は「縁」を大事にしている学校ですが、改めて生徒一人一人の「縁」を大事にし、良い面を伸ばしていこうと感じました。飯島さんにも理学療法士として、患者さんとの「縁」を大切にしてほしいと思います。頑張って下さい！

〃「社会に貢献する女性」を訪ねて〃は年３回の発行を予定しています。次回もお楽しみに。